

「微積分の発展」正誤表(2012,6)

p.7	6行目	全微分可能である必要十分条件は,「...	全微分可能であるとき, ...
	7行目	... $F'(0)$ が k, l $F'(0)$ は k, l ...
	8行目	...と表される」ことである.	...で表される.
	10行目	まず「.....」が成り立つときの定数 A, B ...	まず定数 A, B ...
	13行目	$\Rightarrow f(x, y)$ が...	$f(x, y)$ が...
	16行目	... $= Ak + Bl$ $= Ak + Bl$. \square
	17行目	17行目~22行目	削除
	24,5行目	「方向微分が...る」...を忘れてはならない.	方向微分だけでは判定できない.
	26行目	「方向微分が...である」とき	点 (a, b) で全微分可能であるとき
7ページ訂正の詳細は, http://www.ms.u-tokyo.ac.jp/~hosono/books/bisekibun 参照.			
p.79	11行目	..., $(x^2 + y^2)uv - 2u^2x^2 = 0$..., $(x^2 + y^2)uv - 2u^3x^2 = 0$
	11行目	$= (1, 1, 1, -1)$	$= (1, -1, 1, 1)$
	12行目	$= (1, 1, 1, -1)$	$= (1, -1, 1, 1)$
p.34	10行目	..幅 $ E $ とする.	..幅 $ \Delta $ とする.
p.90	5行目	4) $= \mathbf{a} \times \mathbf{c} + \mathbf{a} \times \mathbf{c}$	4) $= \mathbf{a} \times \mathbf{c} + \mathbf{b} \times \mathbf{c}$
p.150	8行目	問3 $F(t) = \dots$	上記 http 参照.
p.156	13行目	$= (1, 1, 1, -1)$ で8.	$= (1, -1, 1, 1)$ で-2.
	13行目	$u_x = -1, u_y = 0; v_x = 0, v_y = 1$.	$u_x = 0, u_y = 0; v_x = 1, v_y = 1$.